

< 合 言 葉 >

いつも 明るい あいさつ で
なに ごとにも 全力で 取り組む
だれにも やさしい 稲田っ子

いなだっ子

笠間市立稲田小学校

学校だより NO.34

令和4年11月16日(水)

台湾バナナ交流給食

笠間市は、台湾と食を通じた文化交流を行っています。

その一環として、11月10日(木)に台北駐日経済文化代表処の4名の方が来校し、台湾バナナ交流給食を行いました。出迎えと見送りは児童全員で行いましたが、給食は5年生が代表して台湾の方々と一緒に食べました。食べている時は黙食でしたが、食べ終わった後に交流タイムがあり、5年生は積極的に台湾の方々に質問をしていました。事前に台湾語を調べていた児童もあり、あいさつを台湾語ですると、台湾語であいさつが返ってくる場面もあり、台湾の方も児童もうれしそうでした。



6年 租税教室

11月10日(木)、6年生が笠間市役所税務課の職員にお越しいただき、租税教室を実施しました。職員から「どんな税があるか」「税金は何に使われているか」などを説明していただきました。

また、子ども達からも「給料の額によって税金も違うのか。」など、たくさんの質問も出て、税に対する理解を深めることができました。

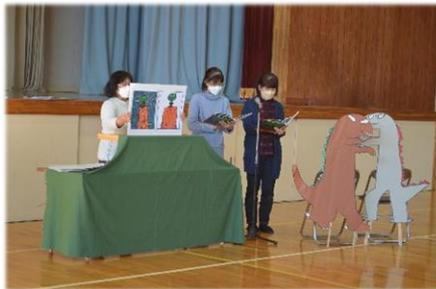


読書集会 (4~6年生)

11月14日(月)、1~3年生の読書集会に引き続き、4~6年生を対象とした読書集会を行いました。5年生の青木 優来さんの読書感想文の発表の後、朗読サークル「アイアイ」の方々による読み聞かせと本の紹介をしていただきました。

人生を変える本に出合ったことがあるかというアンケートに55%の人があると答え、その中で人生を変える本に出合ったのはいつごろかというアンケートでは、12%の人が10代前半と答えています。

秋の夜長、読書を通して、「こんなことをしてみたい」「こうありたい」など、いろいろな生き方を学んでほしいと思います。



平和への願い

5年 青木 優来

1945年8月6日と8月9日、みなさんは何がおこったかご存じでしょうか。人類史上初めて、原子爆弾が日本に落とされた日です。今年の夏休みに、私もニュースなどで見ました。とてもおそろしい出来事だったことでしょう。

私は、平和を祈り愛に生きた医師「永井隆」という本を読みました。この本を読むきっかけは、社会の時間に広島県と長崎県に落とされた原子爆弾で、大勢の人が亡くなった事を知ったからです。そこで、図書館で本を探していると、この本と出会いました。読み進めると、原子爆弾とつながっていました。平和を願い、平和をうったえた永井隆さんの生きざまをえがいた物語です。

原子爆弾はおそろしい兵器で、1945年8月6日広島県で、3日後の8月9日長崎県で原子爆弾により約84万人の人が亡くなってしまいました。

長崎には、如己堂という場所があります。如己堂は、永井隆さんの住まいであり、病室であり、仕事場でした。永井隆さんは、あと3年の命とせんごくされるほどの白血病で、原爆の被害にあいながらも医者としてみんなの命を救うために力をつくしました。思いと生き方は人々を感動させ、日本中ばかりでなく世界の人々にも知られる人でした。すごい人だと知りました。平和を願っていても実行することはとても勇気がいることで、私は、難しくできません。この本を読んで、病気をしながらも平和を願い、平和をうったえた皆さんの本を書き、皆さんの人をはげました永井隆さんのすごさを知ることができました。

一番心にのこったところは、原子爆弾が投下されたところです。長崎が目標に選ばれた理由に、長崎はこれまで空しゅうの被害をあまり受けておらず、原子爆弾のい力を調べるのには都合がよかったと書かれていました。広島よりも大きなはかい力をもつ原子爆弾でした。永井隆さんは、自分がけがをしているにもかかわらず、運ばれてくるかん者のけがの手当てをしました。私は、驚きました。原子爆弾のい力を確かめるだけのために多くの人が亡くなってしまったことに悲しくなりました。目の前で亡くなる人も多くいたと思います。せんごくだと思いました。

私はこの本を読んで、あらためて戦争のおそろしさを知ることができました。人が目の前で亡くなることを想像しただけでこわくなります。

今戦争をしている国があります。ロシアとウクライナです。今でもいろいろなニュースで流れています。その中で住む所や家族や友人を亡くしてしまっている人もたくさんいると思うと、悲しくなります。戦争をしても何もとくはないと思うし、心に傷が残るだけだと思います。だから、話し合って解決してほしいです。多くの命をうばってしまう戦争がなくなって、平和な世の中になってほしいです。